

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.7 ◇◆
2009年3月25日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
ー第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム開催報告
ー国の犯罪対策「子どもの携帯電話の所持について」
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

◆◆◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

皆さん、こんにちは。

年度末はイベントも盛りだくさんで、何かと忙しい日々が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

イベントと言えば、領域主催の第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムを3月10日に開催しました。このメルマガをお読みいただいている方の中にも、参加して下さった方がおられるかと思えます。会場にお越しいただいた皆様だけでなく、プロジェクト実施者をはじめ、多くの方々のご協力のもとに開催することができました。この場を借りて、感謝を申し上げます。

犯罪からの子どもの安全WEBサイトのトピックスでも近日中にシンポジウムの内容を中心とした記事を掲載する予定ですが、今回のメルマガでは企画側からレポートをお届けします。

会場で配布したアンケートの中で「犯罪からの子どもの安全クイズ！」を
ページ(1)

実施しました（正解と思うものを1つ選択）。

1. 平成20年中における13歳未満の少年が被害者となった罪種のうち、前年度と比べて増加したものは？
 - a 凶悪犯（殺人、強盗、放火、強姦）
 - b 粗暴犯（凶器準備集合、暴行、傷害、脅迫、恐喝）
 - c 窃盗犯（窃盗）
 - d 知能犯（詐欺、横領、偽造、汚職、あっせん利得処罰法、背任）
2. 平成19年度の全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は？
 - a 5,000件台
 - b 10,000件台
 - c 40,000件台
 - d 80,000件台
3. 第1回「犯罪からの子どもの安全」メールマガジンで取上げた、韓国にある性犯罪等の被害者が、警察、病院、相談所などを回らずに1箇所ですべての相談・支援を受けることができるセンターは？
 - a one-stop支援センター
 - b two-step支援センター
 - c three-spot支援センター
 - d all-staff支援センター
4. 平成20年1～10月中に、インターネット・ホットラインセンターで受理したインターネット上の違法情報・有害情報の月平均通報件数は？
 - a 5,000件台
 - b 10,000件台
 - c 40,000件台
 - d 80,000件台

作者はもちろん、領域担当です。
内部からは、結構難しくない？との声もありましたが、このメルマガをお読みいただければ、少なくとも1問は確実に正解できます！
正解は、レポートの最後に記しますので、お楽しみに♪

その他の領域活動についてですが、「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」では、地域の防犯リーダー育成プログラムやシステム開発にご協力いただく地域の方々との話し合いが着々と進められているようです。

また、「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトでは、3月6日に研究代表者が所属する大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター主催のフォーラムで、プロジェクトの紹介と進捗報告を行いました。その他のプロジェクトも、次年度に向けて準備を行っています。

また、先日、文部科学省で子どもを取り巻く有害情報への対策を進めているスポーツ・青少年局の方と意見交換する機会がありました。最近、子どもの携帯電話所持について盛んにメディアでも取り上げられていますが、文部科学省では「ちょっと待って、ケータイ」というリーフレットやDVDを作成し、この問題について広報を行っています。

2本目のレポートではこの問題について、領域担当がDVDを見た感想なども交えてお届けいたします。

どうぞご覧下さい。



- 3月10日(火)開催
主催：JST社会技術研究開発センター
第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
被害実態をつかむ ― 子どもたちの叫びが聞こえますか ―

(東京都目黒区 東京大学生産技術研究所コンベンションホール) 開催レポート

皆さんは、子どもの犯罪被害実態がどのようなものか、ご存知ですか？この問に答えることは、実は容易ではありません。私たちが領域の立ち上げを始めた時、有識者や関与者の方々が第一に口を揃えたことは、被害実態はどうなっているのか？ということでした。

警察に認知された犯罪やその統計は、氷山の一角を表しているにすぎません。ヒヤリハットや、警察には届けられない虐待、新たに情報空間で起こっていることなどを把握する、子どもから被害状況を聞き出すなど、多様なアプローチを重ね合わせることによってその全体像が徐々に明らかになるのだと思います。

領域の出発点ともいえるこの問題について取り上げた今回のシンポジウムでは、4名のプロジェクト代表者による講演とパネルディスカッション、全8プロジェクトによるポスターセッションを実施し、領域担当による公募相談も行いました。

講演では、単にプロジェクト概要を紹介するのではなく、犯罪からの子どもの安全という書籍があった場合に、4名の講演がその第1章を飾るようなイメージで、日本の現状や問題意識も含めてお話いただきたいと、企画の早い段階から伝えてきました。そこで今回は、講演の最後に各講演者が次の講演者もしくはセッションに向けて、メッセージを発信しバトンタッチするという方式にしました。

この領域では研究開発成果の社会還元を強く意識しており、今回のシンポジウムでは、研究者だけでなく、成果の活用を期待したい現場の方々にも是非参加いただきたいと、各方面にリーフレットを送付するなど広報に努めてきました。それが功を奏したのか、160名を超える来場者のうち、プロジェクト実施者以外では、自治体、教育関係、警察、ITや安全関係の企業の方々に多くご参加いただくことができました。

プロジェクトをより良い方向に導くには、現場の方々の意見がとても重要です。パネルディスカッションでも、現場からの視点ということで、コーディネーターを選出。答えにくいことも“切り込み隊長”にズバツと聞いていただくと、答えないわけにはいきませんので、パネリストの皆さんの率直な意見を聞くことができ、アンケートの結果から、来場者からも大変好評でした。

また、他のプロジェクトの取組みを知り、互いを高め合うことも有効です。

ポスターセッションについて若手の実施者からは、「他の実施者と意見交換ができ、とても勉強になった」との声も。いつもはプロジェクト代表者が中心となりがちですが、これからを担う多様な若手の方々のネットワークをどう広げていくかも考えていきたいことの1つで、今回がその第一歩になればと思います。次はやはり、若手の会立ち上げでしょうか？若手の線引きが難しいとの声もあります…

この領域では、各プロジェクトが個別に研究開発を実施するだけでなく、領域全体として議論し、犯罪からの子どもの安全について考えていくこととしています。その一例が、最後に領域総括から発信した「次年度公募に向けたメッセージ」です。12月に実施した領域合宿での議論をふまえつつ、次年度公募で期待したい提案について、シンポジウム当日にも、プロジェクト実施者、領域アドバイザーと共に改めて議論してまとめました。

公募と言えば、公募相談窓口にも思いのほかお立ち寄りいただき、嬉しい誤算です。公募開始にあたっては、WEBサイトはもちろんのこと、

このメルマガでもいち早くお届けします。

皆さんとの議論を積み重ね、全体として学びながら進めていくのがこの領域の特徴の1つです。犯罪からの子どもの安全・第2章として、次回のシンポジウムでどのようなテーマを取り上げたらよいか、皆さんのご意見をお待ちしています。

クイズの答え：1. a 2. c 3. a 4. c
会場での正答率やシンポジウムの資料等は、後日WEBに掲載します。

(領域担当 N.A.)



●国の犯罪対策「子どもの携帯電話の所持について」

ネットいじめなどの被害が深刻化する中、小中学校への携帯電話の持ち込みが原則禁止、高校では、校内への持ち込みは認めるが校内や授業中の使用を禁止という通知が文部科学省から各都道府県教育委員会に出されました。

「ついに」というか、「ようやく」という気もしますが、「禁止」と子どもたちに伝えるだけでは問題解決にはなりません。学校現場の努力は必要ですし、子どもや保護者もこの問題について知り、真剣に受け止めることが必要です。

子どもの携帯電話をめぐる問題に関して文部科学省では様々な取り組みを実施しており、子どもや保護者への啓発の一環として、「ちょっと待って。ケータイー 被害者にも加害者にもならないために」というDVDを作成・配布しています。この映像は、文部科学省の動画配信サイト「エル・ネット」からも閲覧可能です。

エル・ネット：http://www.elnet.go.jp/elnet_docs/keitai-dvd.htm

映像では、子どもたちのメール利用の実態、違法有害情報やプロフィール（自分のプロフィールページを作成できるサービス）の危険性、ネットいじめなどについての事例をドラマ仕立てで紹介し、それぞれのテーマについて、子どもと保護者、双方の目線から作成されています。

子どもでも保護者でもない私はまず、大人にとっては当たり前のことが、子どもには通用しないという傾向が、ケータイにおいては顕著に表れているということに驚きました。

少しメールの返信が遅れたら「シカト」扱いされるなんて…大人なら「忙しいのかな？」ですまされてしまうことが、子どもたちの世界ではそうはいかない。

相手の気持ち、状態を汲み取れないようで、物哀しさも覚えますが、これも時間の制約なく、相手の顔が見えない状態でコミュニケーションが図れてしまう、携帯・インターネットならではの傾向とこのこと。そのような状態にあることを知った上で、対策を考えなければなりません。

映像の中では、サブタイトルにもあるように、被害者にも加害者にもならないためにはどう対処すべきかが端的に述べられています。子どもが、

親が、いざというときに思い出し、実際の行動に生かすという点においては、この“端的”というのは、ポイントかもしれませんね。

新しい技術にはそれを取り巻く新しい問題が発生し、新たな視点での対策が必要になってきます。「そんなの常識の範囲で対応できるでしょ」というような固定観念は捨てて、一から問題に向き合うことの大切さを実感しました。そういう意味では、親子で問題意識を共有し、事が起こる前に対処法を一緒に考える、そんな場面にこの映像は一役買ってくれるかもしれません。

(領域担当 S.F.)

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取組み

「インターネット有害情報のフィルタリング普及キャンペーンの実施について

(内閣府、総務省、経済産業省、内閣官房、警察庁、文部科学省)

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/koho/campaign/index.html>

少子化対策に関する特別世論調査(内閣府)

<http://www8.cao.go.jp/survey/tokubetu/tindex-h20.html>

少年非行等の概要(平成20年1~12月)(警察庁)

http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen38/syonenhikou_h20.pdf

平成20年中のサイバー犯罪の検挙状況等(警察庁)

<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h20/pdf46.pdf>

取調べの録音・録画の試行についての検証結果(検察庁)

http://www.kensatsu.go.jp/saiban_in/rokuon.pdf

新しい日本の教育 今こそ実行のとき! 「心を育む」ための5つの提案
(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/02/1236056.htm

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成21年3月26日 日本都市計画学会 第114回 まちづくり懇話会
「都市計画制度の抜本的見直しに向けて」

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cpij/com/proj/g114.html>

平成21年4月23日~26日 子ども環境学会 2009年大会「子どもの力」

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cpij/com/proj/g114.html>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころは、新しく設置した「関連情報」ページです。
このページには、大きく二つの情報を掲載しています。

1つは「関与者・関連組織」といった“人“に関わる情報で、地域と
カテゴリーによって分類し、関連リンク情報と合わせて掲載しています。
もう1つは「関連文献」情報で、関連する書籍、論文などの“文献”に
関する国内、海外の情報を検索することができます。

領域目標の一番目は、ネットワーク構築です。現時点は、領域関係者の
情報を中心に掲載しておりますが、今後も徐々に内容を充実させていき、
「犯罪からの子どもの安全」について、皆様の活動、そしてネットワーク
構築のお役に立てるような情報の提供を目指してまいりますので、使ってみた
感想などをいただけますと幸いです。

「関与者／関連組織」→ <http://anzen-kodomo.jp/related/org/index.php>
「関連文献」→ <http://anzen-kodomo.jp/related/index.php>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

☆ 1位 「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域 平成19年度報告書
<http://anzen-kodomo.jp/reporters/pdf/ryouiki.pdf>

2位 国の取組み
<http://anzen-kodomo.jp/ministries/index.html>

3位 イベント情報
<http://anzen-kodomo.jp/event/index.html>

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2009年3月25日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
